

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 板倉町立東小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	教育課程編成上の工夫	教務主任	全学年	カリキュラムマネジメントの実現に向けて、校時表を2つ通常時間割・特別時間割にすることで、児童と教員との関わり合いの時間を確保する。	全期間		
2	教科等の年間配当時間の工夫	教務主任 各教科主任	全学年	年間指導計画の改善、各教科と行事との関連等を教科横断的な視点で改善を行う。また、余剰時間を生み出すことで、スリム化を図るとともに学びの時間を確保する。	年度当初		
3	スキルアップタイムの設定	教務主任 研修主任	全学年	朝の会后、15分間を担当が学習指導に活用できる時間を毎日帯で設定し、児童の実態に合わせたプリント学習や読書等を全校で取り組む。	全期間		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担当制の導入	教務主任	3～6年	教科担当制を行うことで、専門的な授業や教材研究を充実させ、児童に還元できるようにする。	全期間		
2	かがやきチーム やさしさチームの編成	校長	全職員	職員を学力向上(かがやきチーム)と生徒指導・教育相談(やさしさチーム)に分け、小部会を開いて決定していく仕組みを作る。	全期間		
3	通級指導の充実	通級指導担当	全学年	個別指導や支援が必要な児童に対して、担任が保護者と相談し合意のもと、個の特性に応じた学習やSSTを実施する。	全期間		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	個と全体を組み合わせた校内研修	研修主任	全職員	教員が研修主題に沿って、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを行う。その工夫点を記録して貯めておく。学期末に各ブロックで指導の工夫点を話し合い、模造紙にまとめて掲示し、授業改善に取り組む。	全期間		
2	一人一授業の実践	研修主任	全職員	研修の主題に沿って一人一授業を行い、教員同士で参観し、はばブラⅡの授業構成を基本とした指導力の向上を図る。	9月～		
3	メンター研修の充実	資質向上主任	全職員	困り感や悩みを共有しながら、教員のチームワークで解決していく研修の機会を設定する。外部講師や校内の教員等が講師となり、研修を行い、指導力向上につなげる。	全期間		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の結果分析	教頭	全職員	全職員で担当を決め、全国や県の平均と比較して分析することで、本校の課題と改善策を検討する。	夏休み 後半		
2	改善策を基にした全校での具体的な指導実践	学力向上コーディネーター	全学年	結果分析を受け、かがやきチームで各教科の領域ごとに改善策を考え、目指す児童の姿を具体的にすべく指導方針を決める。全職員に周知し同一歩調で実践に取り組む。	夏休み～ 9月初め		
3	アンケートによる結果分析	学力向上コーディネーター	全学年	2・3学期に同一歩調で指導実践し、取り組んだ結果を3学期に教員にアンケートを取り、結果を分析する。必要に応じて次年度に継続指導するかを検討する。	2月後半		
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	幼保小・小中との情報交換	小1小6担任	全学年	保育園や幼稚園の5歳児担任教諭との情報交換を夏休み中に実施することで、次年度へ向けた指導や支援につなげていく。また、6年担任と中学校との情報交換を行うことで、次年度に向けた指導や支援につなげられるようにする。県が推進しているスタートカリキュラムを進めていく。	夏休み		
2	出前講座の活用	教頭	全学年	総合的な学習の時間や保健、家庭科等の授業において外部講師を活用し、体験を通じた主体的、探求的な学習につなげるようにする。	全期間		
3	PTA活動・保護者ボランティアによる支援	教務主任	全学年	各部会の活動や読み聞かせなど、児童の教育環境を支援してもらう。保護者ボランティアを募集し、指導の専門性や教育活動の安全性を高める。	全期間		

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 板倉町立西小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
<b>取組Ⅰ 教育課程の改善・充実</b>							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	学級活動の充実	各担任 校長	全学年	人の話をしっかり聞き、自分の意見をまとめたり、深めたりしながら自分の考えをしっかり伝える力を育成するために、議長団を中心とした学級活動を実施する。	適宜		
2	国語・算数のテストの統一、EXテストの活用	担任	全学年	全学年で、思考力を問う問題が含まれるテストに統一し、活用問題が含まれるEXテストを活用することで、思考力・活用力を育成する。	通年		
3	漢字・計算大会の実施	担任	全学年	基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、漢字・計算大会を実施する。	長期休業明け		
<b>取組Ⅱ 指導体制の工夫</b>							
1	ちりつもタイム (帯学習時間の設定)	各担任	全学年	朝の短学活後の10分間を基礎・基本的な学習内容の定着を図るための学習時間として設定。自学自習を基本とし、個に応じた支援を行う。	通年		
2	通級体制の充実・マイタウンティーチャーの活用	通級指導担当 マイタウン ティーチャー	全学年	個別の支援が必要な児童に対して、担任が保護者と相談の上、個に応じた支援を行う。	通年		
<b>取組Ⅲ 指導力の向上</b>							
1	校内研修の充実	全職員	全学年	研修テーマにあった授業実践を日々積み重ねた上で、全教員による一人1授業を行う。一人1授業については、相互に授業を見合えるように計画を立てる。授業研究会では、授業改善の視点をもとに、手立ての有効性などについて協議しながら、授業の成果と課題を明確にし、授業改善を図る。	通年		
2	ベテランも若手もともに学べる資質向上研修	全職員	全学年	研修副主任を中心とした、ベテランも若手もともに学べる校内のOJTを活用した資質向上研修を計画的に推進する。	夏季休業中を中心に		
<b>取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用</b>							
1	全国学力・学習状況調査の分析	全職員	6年	全国学力・学習状況調査の問題を分析し、育成すべき資質・能力を再確認し授業実践に活かす。	夏季休業中		
<b>取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働</b>							
1	学力向上だより発行	学力向上C	全学年	学力向上だよりを発行する。学力向上に向けた学校での取組や家庭での自主学習の方法を紹介する。	適宜		
2	家庭学習がんばりウィークの設定	各担任 学力向上C	全学年	毎月、第1週を家庭学習がんばりウィークと設定し、家庭での学習について記録し、振り返る機会を設ける。記録用紙に家庭学習の手引を掲載することで、保護者への啓発を行う。	毎月第1週		
3	幼保小、小中との情報交換	1・6年担任	1・6年	幼稚園、保育園5歳児担任や中学校との次年度に向けた情報交換を行う。	夏季休業中 年度末		

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 板倉町立板倉中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	学習課題を明確にした授業構想	研究推進委員	全学年	○はばブラⅡや、はばブラⅡICT活用Verに基づく授業実践と、学びの意欲を高める「めあて」「まとめ」「振り返り」の工夫をする。	通年		
2	自己研修課題に基づいた指導の工夫	校内研修主任	全学年	○課題解決に向けて思考・判断・表現する生徒を育成するために、単元目標を設定し単元の見直しをもたせるようにしたり、計画的・段階的な指導を行ったり、評価方法・評価基準を明確にしたりするなどの授業改善を行う。	6月～11月		
3	カリキュラムマネジメント	教務主任	全学年	○「豊かな人間性の育成」のため道徳でのローテーション授業、「健やかな体の育成」のため朝の会での簡単な運動、「確かな学力の育成」における非認知能力・エージェンシーの育成のためキュビナを活用した朝学習などを教育課程に位置づける。また、業務改善・組織運営として「提言06」に沿った行事の精選やICT活用による効率化を進めていく。	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科部会やメンター研修の活用	メンター主任 教務主任	全学年	○教科部会や、メンター研修を活用し、指導と評価の一体化を目指した単元構想や、指導方法・評価方法の工夫などの指導体制づくりの共有化をする。	通年		
2	基礎を伸ばす朝学習への取組	各学年	全学年	○全学年で、基礎を伸ばし、学習習慣の確立に向けた朝学習への取組をする。	通年		
3	全校一斉道徳	各学年	全学年	○毎週水曜日に全校一斉での道徳の授業時間を設定し、各学年の担当でローテーションをしながら授業を実施する。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	一人1授業などの授業公開と参観	各教科主任	全学年	○「授業の視点」を明確にした、一人1授業の実践と参観、また研究授業を中心とした実践・授業改善を行う。	通年		
2	資質向上研修を生かした指導力の向上の取組	校内研修主任	全学年	○資質向上研修を活用し、多面的・多角的な生徒理解に基づく指導や、一人一人の教育的ニーズに応じた取組からの指導の工夫を行う。	通年		
3							
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上Co	全学年	○実施学年の教職員だけでなく、全国学力・学習状況調査の分析結果を全職員で共有し、本校の課題を把握する。	夏休み		
2	NRTテストの成果及び課題分析	学力向上Co 各教科主任	全学年	○NRTテストの成果及び課題を分析し、各教科全体で共有し、課題を活かした教科指導につなげる。	夏休み		
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	自主学習方法の提示・改善	学力向上Co	全学年	○学習習慣・生活習慣の定着（凡事徹底）に向け、自主学習の手引きを活用したり、毎日の記録をつけたりして、実践できるようにする（マイプランニングノートの活用）	6月～		
2	家庭での学習習慣の定着	学力向上委員会	全学年	○定期テストに向けた家庭学習計画表の作成・実施を行う。 ○キュビナの活用などICTの活用も推進する。 ○板倉町の「凡事徹底ファイル」の活用	6月～		
3	キャリアパスポートでの情報交換	各学年	全学年	○各学年進級時や入学、高校進学の際の情報交換時にキャリアパスポートを活用する。	通年		
4	小中連携授業の実施	小中連携担当	小学校	○板倉西小学校で小中連携授業を実施する。 英語：小学校3年生の2クラスを週に各1時間 図工：小学校6年生の2クラスを週に各1.5時間	通年		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

明和町立明和東小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	読み書き・計算コンテストの実施	学力向上コーディネーター	全学年	・児童が自ら目標を決め、読み書き・計算コンテストに向けて自発的に学習できるように支援し、基礎的な学力を定着させる。	9・1		
2	CRT学力調査	学力向上コーディネーター	全学年	・全校一斉に朝行事の習熟の時間に活用問題を計画的に行う。テスト後は実施結果を分析し、落ち込んでいる単元について補充を行う。	1・2		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	少人数指導	授業者	全学年	・教員間で密に共通理解を図りながら、個に応じたきめ細かな習熟度別少人数指導やTT指導の工夫と実践を行う。	通年		
2	補習体制の確立	学力向上コーディネーター	全学年	・町支援員による学習支援体制を確立し、実践する。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	「わかる」「できる」を実感できる学習活動の工夫	授業者	全学年	・児童が「わかる」「できる」と実感できるように、どんな学習活動を行うのかゴールを明確にして、本時のねらい・まとめ・振り返りの場面を設定する。また、タブレットを活用し、発言することが苦手な児童も意見を伝える場を設定し、話し合い活動を充実させる。	通年		
2	一人一授業の実施	研修主任	全学年	・研究授業・発表授業を中心とした一人一授業を2学期に実践し、児童が自己決定し、意欲的に取り組める授業展開を考えていく。	10・11		
3	校内研修の活性化	研修主任	全学年	・全教職員で研究の方向性を確認し、必要感に応じた資質向上研修を計画して行う。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題を分析する	学力向上コーディネーター	全学年	・全国学力・学習状況調査の結果を、授業者を中心に分析し、全教職員で共通理解を図る。	9		
2	全国学力・学習状況調査の対策をする。	学力向上コーディネーター	全学年	・分析した結果をもとに、朝行事の習熟の時間に、学年に応じた活用問題を実施する。	3・4		
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	家庭学習の手引き	学力向上コーディネーター	全学年	・具体的な学習内容や目標の学習時間を提示し、家庭学習におけるルールの共通理解を図る。	4		
2	家庭学習調査	学力向上コーディネーター	2～6年	・学期ごとに10日間、家庭学習を記録する期間を設け、家庭学習の取り組み状況を学校と家庭で把握し、自主的な学習に向けて家庭への協力を依頼する。	6・10・2		
3	自主勉コンテスト	学力向上コーディネーター	3～6年	・児童が目標を立て振り返りができる自主勉ノートづくりを推進している。工夫しているノートを掲示したり賞を設定したりしながら、意欲づけを行っている。	通年		
4	幼小中学校の連携	全職員	全学年	・こども園、西小学校、明和中学校とは、情報を交換し、会議や授業参観の機会をもち、連携を密にしている。	通年		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 明和町立明和西小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	週末作文の実施	学級担任	全学年	週末にテーマを決めて作文(高学年で200字)を宿題にする。児童同士で作文を読み合い、感想を書いたりや校正を行ったりすることで書くこと、読むことに慣れさせる。テーマは国語の指導計画に準じた物とし、年に数回は「子ども新聞」の記事を読んで要約したり意見感想を書いたりする機会を設ける。	通年		
2	全校でテストを統一、EXテストの導入	学級担任	全学年	全校でEXテストを国語、算数で実施することにより、応用問題、思考力の問われる問題に慣れさせる。算数大会にはEXテストの問題を1～2問出題し、上位児童にも手ごたえのある問題としてさらなる学習意欲の向上を目指す。	通年		
3	国語算数大会の実施	学級担任	全学年	各学期末にまとめとしてテストを行う。国語は漢字の読み書きと言葉の問題、算数は計算問題、文章問題、図形問題など既習内容を幅広く取り扱う。後述のチャレンジアップ週間と連動させて、学習内容の定着を図る。	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	高学年における教科担任制の実施	高学年担任	5,6年	教科担任制を実施し、専門性を生かした質の高い授業、教材研究の充実や負担軽減を図る。それにより児童の学力向上や、複数教員の目による生徒指導の充実を期待する。	通年		
2	道徳の学年ローテーション授業の実施	学級担任	全学年	教材研究の充実や負担軽減を図る。それにより児童の理解を深め、複数教員の目による生徒指導の充実を期待する。	通年		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	学力向上CNによる若手教員への授業参観	学力向上	全学年	学力向上CNが本校初任の教員を対象に、指導案不要の参観授業を行う。観点は「はばブラを実践できているか」である。授業は他の教員にも公開し、授業当日に研究会を単に行う。	1, 2学期		
2	メンター研修	学力向上	全学年	若手の教員でメンターチームを結成する。持ち回りでリーダーとなり、日頃の悩みやアイデアをテーマとして話し合い、指導力の向上につなげる。	通年		
3							
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料を活用し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	夏休み		
2	CRTの成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	CRTの結果を分析し、児童生徒の学力向上を図ると共に教員の授業改善のポイントを検討する。	2～3月		
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	チャレンジアップ週間	学力向上コーディネーター	全学年	学期に一度の国語算数大会前に10日間の「チャレンジアップ週間」を設ける。家庭学習強化週間として、学習時間を記録する。開始前に学活の時間などを使って、学習計画を自分で考えさせる。また、ノーマedia週間も同時開催し、動画視聴やゲームの時間を自分で制限して自主学習につなげられるようにする。	通年		
2	読み聞かせ	教養部 読み聞かせボランティア	全学年	教養部の保護者が選んだ本を、朝の時間ボランティアの方に読み聞かせに来てもらう。本に触れるきっかけを作り、読書に親しめるようにする。	通年		
3	子ども園との情報交換	1年担任	1年生	夏休みに子ども園と情報交換会を行う。2月に子ども園の年長クラス園児が来校して校内を見学し、6年生と遊ぶ。気になる児童について適宜子ども園に情報を聞く。	通年		

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

明和町立明和中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	特別活動の見直し	研修担当	全学年	・学校における個々の学習が、それぞれのキャリア形成にどのようにつながっているのか、またなぜ学ぶのかを意識して授業に取り組めるよう、授業での学びを実生活で活用できるようにする。また、学活の時間を通してキャリア教育を充実させる。	通年		
2							
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	自主学習の充実	研修担当	全学年	○定期テスト前に主体的に学習に取り組めるよう、テストの内容に合わせた自主学習プリントを廊下に設置する。	定期テスト毎		
2	ローテーション道德の実施	道德主任	全学年	○子供たちが多くの先生方の考えに触れ、深い学びを得られるよう、ローテーション道德や学年道德を取り入れる。	通年		
3	朝学習の充実	学力向上コーディネーター	全学年	○基礎的な知識・技能の定着を図るためにeライブラリに取り組みせたり、読書習慣を身に付けさせるために朝読書の期間を設定したりする。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	生徒の変容を見取る	全職員	全学年	○生徒の実態を把握し授業改善を行うために、1学期末と2学期末に生徒を対象に学習に対するアンケートを実施する。	通年		
2	ICT活用の研修	学力向上コーディネーター	全学年	○授業での有効的なICT活用方を身に付けるために、はばブラⅡ-ICT活用ver.-を参考に、各教科でITCを授業で有効的に活用する方法を職員間で共有する。	1学期		
3	「めあて」と「振り返り」の工夫	全職員	全学年	○校内研修等を通して、生徒から引き出す「めあて」の提示方法や「めあて」に基づく「振り返り」の方法など、学びある授業づくりについて職員間で共有する。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○明和中の課題を把握し、改善策に取り組むために、実施学年だけではなく全学年の職員で結果分析を行う。	2学期		
2							
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	家庭学習の充実	全職員	全学年	○家庭学習の充実を図るために、Classroomなどに問題を掲載し学習に取り組みやすい環境を整備するなど、ICTを有効的に活用する。	通年		
2	クラスルームを用いた情報提供	全職員	全学年	○学校での生活の様子や、生徒の学習の様子を家庭と情報共有するために、学年懇談会や随時各家庭において、生徒のタブレットから情報を発信する。	通年		
3							

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

千代田町立東小学校

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	年間指導計画の見直し	教務主任	全学年	○STEAM教育の視点を取り入れられる探究課題を設定したり、学習活動を年間指導計画に位置付けたりするとともに、単元配列表の修正を行う。※総合的な学習の時間を重点的に行う。	夏休み		
2	朝学習の計画的な実施	学力向上コーディネーター	全学年	○国語の力を身につけさせるために、語彙を高める「ワードツリー」と読解力を高める「YOMUよむワークシート」を隔週で行う。 ○確実な計算力を身につけさせるために、ドリル学習やタブレットのアプリを使った学習を行う。	通年		
3	教育活動にNIEを取り入れる	学力向上コーディネーター	全学年	○新聞を活用した実践を積み重ね、共有していく。また、新聞に親しめる校内環境づくりを行う。	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	交換授業による教科担当制の充実	教務主任	全学年	○教員免許や教科主任等から、より専門性の高い教員による指導を充実させる。複数学年を担当することで系統性を意識させる。	4月		
2	マイタウンティーチャーによる算数科のTT指導	教務主任	3・5年 中心	○3・5年の算数の授業に、マイタウンティーチャーをT2として配置し、一人も取り残さない指導の実現を図る。	4月		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	資質向上研修の充実	研修主任	全職員	○職員一人一人にアンケートを取り、本校にとって必要感のある資質向上研修に努める。	夏休み		
2	一人一授業以上の授業公開	研修主任	県費職員	○研修主題に基づいた授業の計画・実践（公開）・参観・振り返りを行う。1回以上の公開 と3回以上の実践を設定する。	9月		
3	CRT実施と分析の活用	学力向上コーディネーター	全学年	○前年度の領域ごとの課題を読み取り、本年度の指導に生かすようにする。 ○CRTの問題から未実施の学習単元がないか確認する。 ○結果の分析では、領域別集計結果の全国比と学年得点率の割合を比較し、各教科の課題となる事項と次年度の指導に生かす事項をまとめる。	6、2月		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。 ○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。	10月		
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	家庭学習の計画的な指導	学力向上コーディネーター	全学年	○「毎日の家庭学習」をハイジし、家庭学習の進め方を提示する。 ○学習内容を自分で考えて自分でやる家庭学習ができるように、学習の仕方を指導する。 ○各学期ごとにチャレンジウィークを設定し、自身の目標を設定するための家庭学習の習慣化を図る。	4月		
2	中学校教諭による授業	教務主任	5・6年	○中学校教諭による英語科の授業を通して、小中の系統性を図り、英語力を高める。	通年		
3	読書時間の確保	情報主任 図書主任	全学年	○各学期に設定したチャレンジウィーク内に各学級でノーマディヤデーを設定し、家庭学習で読書するきっかけをつくる。 ○夏休みの宿題に「親子読書」を出し、読書時間の確保をしていく。	6、11、2月 夏休み		
4	地域人材の活用	各学年担任	全学年	○朝行事や学年行事に地域人材を活用する。 読み聞かせ（全学年）、昔遊び（1年）、田植え、稲刈り、しめ縄作り体験（5年）	通年		
5	学校評価を活用した学力の向上	教務主任	県費職員	○年2回行う学校評価の結果から、本校の課題と改善策を各家庭に周知する。	7月、2月		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)



## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 千代田町立西小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	書き書きタイムの導入	研修主任	全学年	○書き書きタイムを月に3回、朝学習の時間に実施し、視写・型を用いた作文・ミニ作文等を継続して書く活動を行う。	2学期～		
2	NIEの取り組み	NIE担当	全学年	○NIEタイムを月に3回、朝学習の時間に実施し、読解力・表現力の向上を図る。 ○NIEタイムや授業で作った新聞などを提示し、見られるようにする。	通年		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の共通理解と共通実践	学力向上コーディネーター	全学年	○学習スタンダードを全校で共有し、学習に取り組みやすい環境を整える。 ○学校評価や教師の見取りから成果と課題を検証する。	通年		
2	交換授業による教科担当制の充実	教務主任	全学年	○より専門性の高い教員による指導を実現させる。	4月		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	CRTの実施と分析の活用	学力向上コーディネーター	全学年	○児童が苦手とする分野を中心に対策授業を実施する。 ○領域別集計結果の全国比と学年得点率の割合を比較し、各教科の課題と手立てをまとめ、実施する。	6、2月		
2	一人一授業の授業公開	研修主任	県費職員	○研修主題に基づいた授業の計画・実施（公開）・参観・振り返りを行う。	2学期		
3	資質向上研修の充実	研修主任	全職員	○教員の実態や希望に応じた研修、OJTの観点から、教育技術の伝播をする。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○全教員で取り組み、本校の課題を把握する。 ○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。	8月		
2	全国学力・学習状況調査の対策	学力向上コーディネーター	5・6年	○5・6年の児童対象に、町教育委員会と連携しながら情報処理スキル（答え方）を身に付けるための対策授業を行う。	3・4月		
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	「毎日の家庭学習」配付	学力向上コーディネーター	全学年	○学年ごとに家庭学習の具体的な学習内容例や進め方を提示する。	4月		
2	チャレンジウィーク設定	学力向上コーディネーター	全学年	○中学校の定期テスト期間に合わせて、2週間の家庭学習強化週間を設け、家庭への協力依頼、家庭学習取組状況の把握をすることで、家庭学習の習慣化を図る。	6・11・2月		
3	学校評価	教務主任	全学年	○学校評価の結果から、各取組の改善を図り、特色ある教育課程を編成していく。 見直した取組等を各家庭に周知し、学校と家庭の協働体制を築く。	6・11月		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)



## 令和6年度 学力向上計画・報告書

千代田町立千代田中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	学級活動の充実	特活主任	全学年	○安心して学べる環境づくりのために、「学習規律」や「よりよい授業の受け方」などのテーマについて考えたり話し合ったりする活動を設定する。 ○学級の状態を把握するためにQIを年間2回実施し、指導に生かす。	通年		
2	学びを深めるための年間指導計画の作成	教務主任	全学年	○生徒の学びが深まるよう年間指導計画の作成や見直しを行う。	年度当初		
3	読解力向上	国語主任	全学年	○週1回、読解力向上のための学習を実施する。 ○全教科において、生徒に読解スキルを意識させる。	通年		
4	情報活用能力向上	教育の情報化主任	全学年	○週に1回、タイピング練習を実施する。	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担任制・学習形態の工夫	教科担当	全学年	○「数学」では、数学担当教諭2名が習熟度別少人数指導を行う。 ○「英語」では、英語担当教諭1名、ALT、町職1名のTTを行う。	年度当初		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	校内研修の充実	研修主任	全学年	○職員の指導に対する困り感をアンケートで把握し、必要感のあるものを研修に組み込む。 ○1人1授業の【授業公開・授業研究会】を行う。 ○学力向上につながる授業実践を掲載した【研修通信】を発行する。	通年		
2	メンター研修の実施	メンター	全学年	○月に1度、主に教職6年目以下の教員を対象に、授業、学級経営、生徒指導、不登校支援などについての研修を行う。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。 ○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	夏休み		
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	授業とリンクした家庭学習の充実	学力向上コーディネーター	全学年	○家庭学習方針を立案し、4月の学年・学級懇談会や5月の二者面談を通して、家庭に家庭学習の進め方を周知する。 ○国語・数学・英語は毎日20分程度、社会・理科は週1回以上家庭学習課題を出す。 ○年度初めの授業で、家庭学習の方法について、生徒に紹介する。	4月		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

大泉町立南小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実								
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て		重点時期
1	教育課程編成上の工夫	教務主任	全学年	○教科等の年間配当時間の工夫・校時表の見直しをする。 ○児童の変容に基づく評価・改善ができるよう学校評価を行い、話し合いをしていく。	通年			
2	読書指導の充実	図書担当 学力向上	全学年	○読書に親しむことができるよう、朝読書や読み聞かせの機会を設定する。 ○様々な本に触れる機会を増やしたり、読書の幅を広げたりできるように、校内での読書ビンゴ、群馬県立図書館より朝読書用の本の借用を行っていく。	通年			
取組Ⅱ 指導体制の工夫								
1	高学年での教科担当制 担任によるT Tの実施	教科担当 該当学年	該当学年	○児童の多面的な理解や個に応じた指導ができるように、教科担当制を実施し、担任がT 2として指導に入る時間を設ける。	通年			
2	「南小のきまり」の徹底	生徒指導 学力向上	全学年	○児童の実態を踏まえて全職員で児童を育てていけるように、「南小のきまり」を全職員で共有し、保護者や児童にも周知していく。 ○落ち着いて学習に取り組めるように、学校生活の環境を整えていく。	通年			
3	学力向上委員会の設置・ 実施	管理職 学力向上	全学年	○家庭と連携して学習習慣をつけていくことができるように、「学習の手引き」の見直しを行う。 ○児童の苦手分野を意識して指導を行えるように、具体的に取り組むことを考える機会を設ける。	通年			
取組Ⅲ 指導力の向上								
1	ICTを活用した 授業改善	研修主任	全学年	○ICTを効果的に活用できるように校内研修を充実させ、児童の学習意欲の向上、授業改善を図っていく。 ○個別最適な学びの場を設定するために、スタディサブリを朝学習や授業の中で活用していく。	通年			
2	資質向上研修・ メンター研修の実施	研修主任 メンター主任	全学年	○職員の指導力向上を目指し、児童へ実践できるように、アンケート等をとりながら、困り感に即した研修を実施していく。 ○若手教員の困り感や悩みを解消していけるように、必要に合わせた研修を企画したり、学ぶ機会や時間を確保したりしていく。	通年			
3	一人一授業の実施	研修主任	全学年	○研修や県の取組を意識し、見通しをもって授業改善ができるように、2学期の学校訪問での課題を生かして公開授業を行う。 ○各教員の指導力向上を目指し、職員間で授業を参観し合える機会を設定する。	11～ 12月			
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用								
1	全国学力・学習状況調査 の分析	学力向上	全学年	○本校の課題を把握して指導に生かしていけるように、夏休みに全職員で分析し、今の担当学年でできることについて考え、実践に繋げていく。	夏休み			
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働								
1	各家庭へ「学習の手引 き」の周知	学力向上	全学年	○家庭学習の参考となるように、「学習の手引き」の保護者用・児童用を配布して、啓発していく。 ○「家庭学習がんばり週間」に主体的に取り組めることが増え、いつでも見られるように、児童用の手引きをがんばりファイルに入れておく。	5月			
2	P T A学力向上委員会と の連携	教務主任 学力向上	全学年	○保護者と連携して学力の向上を目指していけるよう、「子どもたちの学力向上に向けての提言」を保護者に周知する。	4月			
3	家庭学習の充実 がんばり週間の実施 スタディサブリ活用	学力向上	全学年	○学習意欲を高めたり、学習のきっかけになったりするように、学期末のコンテスト前に合わせて「家庭学習がんばり週間」を設定し、学力の向上を図る。 ○夏休み等の家庭学習でスタディサブリを活用する機会を設け、主体的に学習に取り組む態度を育成する。	学期末			

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

大泉町立北小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	全国学力・学習状況調査質問紙の効果的な活用	全職員	全学年	○全国学力・学習状況調査の質問紙の結果で、状況を分析・把握し、学力向上につながるような改善案を検討していく。	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担任制	全職員	全学年	○可能な範囲で導入し、ねらい・めあての提示、振り返りの時間の確保、主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践を行う。	通年		
2	学習規律の徹底	全職員	全学年	○授業の「けしき(けじめ・しせい・きく)」などの学習ルールを明確化し、全校で取り組む。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	校内研修の活性化	研修主任	全学年	○校内研修と合わせて、計画的に教員の困り感を解消できるようなメンター研修を行い、OJT研修を推進することで、教員の資質向上を目指す。	通年		
2	ICT活用	情報主任	全学年	○授業の単元終わり、高学年のタブレット持ち帰り家庭学習、全校では長期休業中のタブレット持ち帰り学習でスタディサプリを活用して、基礎基本の徹底につなげる。 ○電子黒板、Canvaなどのアプリの活用法を紹介することで、指導力の向上につなげる。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	標準学力テストの活用	学力向上コーディネーター	全学年	○前年度の標準学力テストの結果を分析し、各学年で身に付けさせたい力を明確化して授業改善を行う。	4月		
2	全国学力・学習状況調査の活用	学力向上コーディネーター	全学年	○全国学力・学習状況調査の結果を分析し、自校で身に付けさせたい力を明確化し、共通で取り組める活動を提案、実施していく。	2学期		
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	家庭学習の工夫	学力向上コーディネーター	全学年	○保護者面談時に「家庭学習の手引き」を配布し、家庭学習の充実に向けて、保護者へ説明・啓発する。また、児童の取組を評価したり、紹介したりしながら家庭学習を充実させていく。	通年		
2	読み聞かせ・読書週間・年間多読賞の実施	図書主任	全学年	○読み聞かせボランティアや図書委員による読み聞かせを実施することで、読書への興味を高める。	通年		
3	幼保小連携会議の活用	第1学年主任	全学年	○情報交換する中で、話の仕方や聞き方など学習ルールにつながる部分の意識の共有化を図り、幼稚園・保育園・こども園から小学校へスムーズに移行することができるようにする。	通年		

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

大泉町立西小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	教科等部会での意見交流	教務主任	全学年	○教科等部会を開き、総合的な学習を軸とする教科横断的な学習について情報交換を行い、年間指導計画へ位置づけて学力向上を図る。	4月 夏休み		
2	各単元の評価についての確認	教務主任	全学年	○教科書改定のスムーズな移行のため、昨年度立てた各単元における評価計画を再確認していく。	通年		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	ユニバーサルデザインを意識した掲示物の精選・西小学習合い言葉を徹底した学習規律の確立	各担任	全学年	○教室掲示の際に、前面の掲示を極力控え、授業に集中できる環境整備をする。さらに、学習合い言葉を全学年共通理解し、机上の整理(えんぴつセット)やあいさつの統一(語先後礼)を意識させ落ち着いて学習に取り組めるようにする。	4月		
2	道徳科ローテーション授業の導入	各担任	全学年	○担任だけが授業するのではなく、様々な先生から教わるようにローテーションで授業をする。	通年		
3	高学年の教科担任制	高学年担当	高学年	○高学年の複数科目の教科担任制を導入することで、学年全体による授業改善・指導体制の充実を図る。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	実態に応じた授業参観	研修主任	全学年	○一人一授業や学校計画訪問前の参観を通して、指導力向上を図る。また、初任・2年目研修の中での授業公開も参観することで学ぶ機会を増やしていく。	通年		
2	ICT活用	情報主任	全学年	○スタディサプリを活用し、学習した内容について、「確認テスト」で理解度を確認し、理解が十分でないところは、「フォローアップ配信」を行うことで苦手箇所を克服していく。また、授業の中で、「授業での理解→確認テスト→弱点補強」のPDCAサイクルを細かく回していく。	通年		
3	校内教員を講師にした短時間研修	研修主任	全学年	○全体研修の中で、校内の教員の専門性や特技を生かし、講師として研修を行うことで、教員指導力向上を目指していく。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○C&S質問紙を活用し、学級及び個の実態把握をしたり、S-P表を活用した分析をし、児童の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討したりする。また、質問紙の分析を丁寧にし、今後の学習指導に生かしていく。	通年		
2	標準学力調査	学力向上コーディネーター	全学年	○観点別到達状況を各学年の結果表から分析し、正答率が下回っている問題を表にまとめ全体で共有し、課題として次年度に生かしていく。	通年		
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	家庭学習週間の実施	学力向上コーディネーター	全学年	○家庭との連携を目指し、家庭学習週間の学習、生活の見直しを提案・実施・アンケートを実施することで、家庭学習の定着を図り、基礎学力の定着を目指す。	通年		
2							
3							

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

大泉町立東小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	教育課程編成上の工夫	教務主任	全学年	朝学習、朝読書、読み聞かせを計画的に行い、学習時間の調整を各学年の状況に応じて行う。	全期間		
2	各学年の実態に応じた学習内容の精選	学力向上コーディネーター	全学年	朝学習や関連のある授業等を利用して、基礎基本の定着や活用力の向上を図る。スタディサプリ等を活用していく。	全期間		
3	教育等の年間配当時間の工夫	教務主任	全学年	学期ごとに行事との関連、教科横断的な視点で改善を行う。	年度当初		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担当制		全学年	教科担当制を行うことで、より専門的な授業や教材研究の充実が行えるようにする。	全期間		
2	「東小スタンダード」の確認・掲示・配付	生徒指導部	全学年	東小スタンダードを全校で共有し、学習に取り組みやすい環境を整える。	年度当初		
3	道徳科ローテーション授業の導入	各担任、専科	全学年	各学年の実態に応じて、担任と所属学年の専科の先生で道徳授業のローテーションを行う。必要に応じて、授業を参観したり、授業の検討を行ったりする。	全期間		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	一人一授業の実践	研修主任	全学年	一人一授業を行い、教員同士で参観し、指導力の向上を図る。	10月～11月頃		
2	資質向上研修会	研修主任	全学年	緊急性や必要性に応じて評価方法や特別活動等の研修を行う。	全期間		
3	メンター研修	メンター担当	全学年	メンター担当を決定し、担当を中心に一人一人の悩みや苦手の分野を共有し、教員全体で解決していく。	全期間		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査結果の分析	学力向上コーディネーター	全学年	全国平均と比べ、課題だと思われる問題を選び、各学年の発達段階で取り組める改善策を考える。	夏休み		
2	分析結果のフィードバック	学力向上コーディネーター	全学年	分析結果を基に県評価資料集等を使い、確認を行う。	3学期		
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	「東小・家庭学習のススメ」の配付	学力向上コーディネーター	全学年	P T A と連携し、家庭学習のススメ（保護者向け）を発行する。	夏休み前		
2	家庭学習チャレンジ週間	学力向上コーディネーター	全学年	学年ごとに「家庭学習のすすめ（児童向け）」と家庭学習カードを配付し、家庭と学校と両方でチェックしながら学習の記録、振り返りを行う。スタディサプリの活用を行う。	6・10・1月		
3	地域ボランティアや高校生との交流	体育主任	全学年	地域ボランティアに読み聞かせや夏休みの学習支援、出前授業などで協力してもらう。西邑楽高校の生徒にボランティアとして体育の授業の補助に入ってもらおう。	1月		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

大泉町立南中学校

(年度当初の計画)				(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	重点時期
1	カリキュラムマネジメントの方針実践	教務 学力向上	全学年	○向上させたい教科横断的な資質・能力の設定、実践計画の提案。 ○学力向上プランの作成、伝達。	年度初		
		研修主任	全学年	○研修の基本方針の原案作成。 ○基本方針の検討と決定、指導計画の作成、実践と振り返り、成果と課題のまとめ。	年度初		
		教科担当	全学年	○単元の目当てでの明確化、年間指導計画に沿った授業実践と修正。 ○授業実践と振り返り、成果と課題のまとめ。 ○1単位時間（1時間・1単元）の授業デザイン	通年		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の徹底	生徒指導主事	全学年	○目指す生徒像と指導の重点の確認、教材や指導方法の共有と改善。 ○「南中けじめある学校生活」の掲示と実践、学習環境の整備。	年度当初		
2	補習体制の確立	教科部会 学年主任	全学年	○学年の実態に応じた補充学習の計画と実践。 ○N o 清掃D a yを活用した補習、長期休業の補習。 ○基礎、基本の定着を目指した既習内容（前学年～）の復習。	通年		
3	日本語学級の充実	日本語教育	全学年	○日本語指導計画の作成、実践と振り返り、改善。 ○個に応じた課題の設定、学習のつまづきへの補助。	年度初 通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	校内研修の充実	研修主任	全学年	○自己の授業における課題の明確化。 ○一人一実践を中心とした実践・授業改善・授業参観。 ○資質向上研修・メンター研修の充実	通年		
2	管理職等の日常的な指導・助言	授業改善部会	全学年	○管理職による授業参観。 ○教材研究、授業参観、指導方法の学び合い、研究授業 等。	通年		
3	知識・技能を伸ばす授業の充実	教科担当	3学年 全学年	○全国学力・学習状況調査、学力検査等の過去問題の紹介と活用。 ○生徒の実態把握と情報交換、実践例の紹介。	2学期		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	検査結果の分析	教科担当	全学年	○落ち込んでいる単元・学習内容の洗い出しと把握。	1学期		
2	指導方法の改善	教科担当	全学年	○分析をもとに教科部会での共通理解、補充問題を精選。 ○単元の系統性を生かした指導の改善、補習・補充の計画。	1学期 以降		
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	自主学習の提案	学年主任 担任	全学年	○学校通信、学年通信、学級通信による家庭学習の啓発。 ○実態、実践の紹介、家庭への協力依頼。	年度初 通年		
2	生活面での実態把握と提案	学力向上 学年主任	全学年	○各学年の実態に合わせた計画の提案、取り組み状況の把握。 ○毎月の生活アンケート実施。 ○全国学力・学習状況調査の結果より生活面での改善の提案。	年度初 1学期		
3	I C Tの活用	教科担当 養護教諭 担任	通年	○課題の設定・配信、スタディアサブリの活用、授業配信。 ○健康観察。 ○欠席者への授業連絡、部活動や学年での連絡。	通年		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)



## 令和6年度 学力向上計画・報告書

大泉町立北中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	確かな学力を育成する授業の構築	学力向上コーディネータ 教科担当	全学年	○学校評価や学力調査、学習に関するアンケートの結果を分析し、本時のねらい・めあての提示、振り返りの時間を意識した授業実践を行う。	年間		
2	学習の定着を図るための単元計画の構築	学力向上コーディネータ 教科担当	全学年	○指導に生かす評価や記録に残す評価をもとに、生徒の実態を把握する。実態をもとに、授業内で具体的な支援や手立てを行い、確実な学習の定着を図る。	年間		
3	指導計画の作成と修正	研修主任	全学年	○1年間の授業の成果や課題をもとに、年間指導計画の作成や見直しを行う。	年度末		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	チームティーチング授業の時間の確保	教務主任	全学年	○特別な支援を必要とする生徒や日本語級の生徒を中心としてT2が支援する。	年間		
2	補習体制の確立	学年主任 学力向上コーディネーター	全学年	○期末テスト前後の期間や、長期休業中に補習を行い、それぞれの生徒の習熟度に応じた学習に取り組ませる。	テスト前後		
3	習得時間の確保	学年主任 学力向上コーディネーター	全学年	○テスト前に、学習内容の定着や理解を深める時間を確保し、生徒が無理なく学習課題に向き合えるように支援する。			
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	1人1授業参観	研修主任	全学年	○教科の枠を越えて授業を参観し、授業の進め方や発問の仕方を学び合ったり、ICTの効果的な活用事例を学校全体で共有したりする。	2学期		
2	資質向上研修の充実	研修主任	全学年	○アンケート結果をもとに研修の内容を考え、計画以外にも必要性が出てきた内容については、随時研修を企画・開催する。	2学期		
3	教科部会での情報交換	研修主任	全学年	○教科部会で授業の進め方やICTの活用方法などについての情報交換の場を設定し、情報を共有する。	年間		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴し、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。	夏休みから		
2							
取組Ⅴ 他校種や家庭・地域との連携							
1	家庭学習の充実	学年主任 学力向上コーディネーター	全学年	○学年通信や学習のあゆみを通して、学年の実態や頑張りについて情報提供するとともに、家庭での協力を依頼する。また、具体的に効率的な家庭学習の取り組み方についても各教科で紹介する。	テスト前後		
2	スタディーサブリの活用	教科担当 学力向上コーディネーター	全学年	○予習や復習に活用できる内容を厳選して宿題を配信し、取り組み状況を家庭に周知する。	年間		
3							

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 大泉町立西中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実								
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て		重点時期
1	基礎学力の定着	学力向上コーディネーター	全学年	○教科部会ごとに基礎・基本の学力の確実な定着を図るための指導の工夫やスタディサプリの活用法について話し合い、実践する。	年間			
2	補習の実施	学力向上コーディネーター	全学年	○定期テスト前後や長期休業中に希望者等への補習を行い、学力の底上げを図る。	長期休業中 テスト前			
3	朝学習の実施	学年主任	全学年	○定期テスト前に実施し、生徒の主体的な学習への取り組みにつなげる。	テスト前			
取組Ⅱ 指導体制の工夫								
1	外国籍生徒への支援	担当支援員	全学年	○日本語学級に通級している生徒への個別支援を行う。その際、支援に入れる教員を割り当て、必要な支援を講じていく。	年間			
2	単元テストの実施	教科担当	全学年	○単元ごとにテストを実施し、課題の早期発見につなげ指導の見直し・改善に役立てる。	年間			
3								
取組Ⅲ 指導力の向上								
1	ICTの活用と工夫	情報主任	全職員	○ICTやスタディサプリの効果的な活用に関する知識・スキルの習得に向けた研修、情報交換、授業実践を行う。また、ICT活用実践例の加除・検証を行う。	年間			
2	一人一授業の実施	研修主任	全職員	○「はばたく群馬の指導プランII」に沿った授業を構想し、授業公開を行う。その後、教科部会等で成果と課題について話し合い、分析する。	2学期			
3	管理職による日常的指導・助言	校長 教頭	全職員	○連絡・相談・報告を密に行い、管理職による指導、助言によって全教職員で意識するマネジメントの共通理解を徹底することで、適切・迅速・慎重な初期対応と事後対応につなげる。	適宜			
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用								
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握し、指導形態の検討及び重点単元計画の作成に生かす。	夏休み			
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	教科担当 研修主任	全学年	○全国学力・学習状況調査の分析結果や学校評価より、新年度に向けた指導体制の見直し・改善に役立てる。	3学期			
3								
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働								
1	三者面談の実施	担任 学年主任	全学年	○三者面談で学校の様子や家庭での様子について話し合い、生活習慣の改善や意欲的な学習への取り組みにつなげていく。また、保護者と情報共有し、家庭学習の啓発を行う。	5月 11月			
2	ホームページの充実	ホームページ 担当	全学年	○学校通信や学年通信などをホームページに載せ、家庭に学習の様子や定期テストの範囲、学習の取り組み方などを周知し、家庭学習の啓発を行う。	毎週			
3	家庭学習の啓発	担任 学年主任	全学年	○定期的・計画的な課題を設定し、自主学習ノートを実践する。その際、学校通信・学年(学級)通信などを発行したり、教室掲示を工夫したりすることで、自主学習の啓発や賞賛を行う。	年間			

令和6年度 学力向上計画・報告書

呂楽町立中野小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	生活科・総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムマネジメント	教務主任	全学年	○児童に主体性をもたせ、深い学びを実現するために、「教科横断的な学習」「PDC Aサイクルの確立」「地域と連携した体験型学習」を積極的に取り入れていく。成果と課題を次年度に引き継ぐため、効果的であった取組を単元配列表へ記入する。	通年		
2	朝学習の実施	学力向上コーディネーター	全学年	○月曜日は国語(αドリル)、火曜日は算数(寺子屋プリント)、水曜日は読書(月1で読み聞かせ)に全校で取り組む。	通年		
3	基礎基本テストの実施・分析	学力向上コーディネーター	全学年	○長期休業中に漢字と計算の復習に取り組み、既習事項の定着を図る。結果を分析して指導の改善に生かすと共に、9割以上得点した児童には賞状を配付して学習への意欲を高める。	各学期はじめ		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	教科担任制の実施	教務主任	全学年	○教員の専門性を生かした教科担任制を実施することで、より質の高い授業を実践する。	通年		
2	学習規律の徹底	学力向上コーディネーター	全学年	○学習ルール(号令・学習用具・ノートの書き方・話の聞き方・発表の仕方等)をどの教科でも共通して指導し、児童が学習に集中できる環境をつくる。	通年		
3	補習体制の確立	教務主任	全学年	○学校指導助手や支援員を効果的に配置し、少人数指導やT T指導、個に応じた指導等を実施する。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	「中野小学習スタイル」による授業実践	校内研修主任	全学年	○「めあてを引き出し、対話を深め、児童の言葉でまとめ、成長に気づき、次につなげる振り返り」をする中野小学習スタイルを日々の授業で実践する。	通年		
2	一人一授業の実践	校内研修主任	全学年	○授業者は、指導案や板書計画を作成し公開することで授業力を高める。参観者は、「参観用ちょこっとメモ」を用いて、良い点を授業者へ伝えとともに、授業者から学んだ点を自分の実践に生かせるようにする。	通年		
3	資質向上研修の充実	資質向上研修主任	全学年	○ICTの効果的な活用の仕方など、教員のニーズに合った研修内容を扱うと共に、校内教員の先駆的な実践発表や、先輩教員の指導技術の引き継ぎを行う場とする。	通年		
4	メンター研修の充実	メンター研修主任	全学年	○若手教員同士がメンティーの悩みや課題について考え合い、助言し合う。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の問題読解	学力向上コーディネーター	全学年	○令和6年度の全国学力・学習状況調査の問題を実際に解いてみることで、今求められている学力の傾向について知り、日々の授業で意識して指導できるようにする。	夏休み		
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	○全職員で全国学力・学習状況調査の結果を分析し、各学年で付けるべき力を確認する。また、県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画を視聴をし、児童がつまづきやすいポイントを捉え、授業改善につなげる。	夏休み		
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	地域人材・資源の活用	学年主任	全学年	○生活科や総合的な学習の時間等において、地域人材と連携した授業や、地域の資源を活用した授業を計画・実践する。	通年		
2	家庭学習の充実	学力向上コーディネーター	全学年	○家庭学習の手引きの配付や、学期毎に家庭学習の時間を記入させて振り返るチャレンジウィークの実施を通して、家庭学習への継続的な指導を行う。また、模範的な自主学習を掲示して紹介する。	通年		
3	生活習慣の改善	学力向上コーディネーター	全学年	○チャレンジウィークと併せてノーゲームデイについても声かけを行い、望ましい生活習慣について親子で考える機会とする。	各学期に一回		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 邑楽町立高島小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当当事者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	カリキュラムマネジメントを意識した授業実践	学力向上コーディネーター	全学年	○各教科年間指導計画、総合単元では、教科横断的に見直し、次年度への改善につなげる。	通年		
2	学級活動の充実	特活主任	全学年	○学級活動(1)領域の話し合い活動を充実させ、児童の思いや願いの実現に向けて、安全かつ安心な学級の雰囲気醸成を図る。また、第1回の学校評価アンケート結果で取組状況を把握し改善策等を検討する。	年度当初		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の共通理解と共通実践	全職員	全学年	○「高島小学習スタイル」を全校で共有し、学習に取り組みやすい環境を整える。学期末にアンケートや教師の見取りから成果と課題を検証する。	年度当初		
2	チームティーチング授業の実践	教務	全学年(高学年)	○各学年の特性に合わせた支援の教師を配置し、一人ひとりに目を配りきめ細やかな指導を実現する。高学年の算数科において、児童の実態に応じ、チームティーチングでより丁寧な指導につなげる。	通年		
3	教科担任制の実施	教務主任	全学年	○理科、外国語、外国語活動、音楽、社会、図工、体育、算数に関しては、教科担任制による適切な指導を実現し、きめ細かい指導につなげる。	通年		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	授業の展開の見直しと「高島小スタイルの確立」	学力向上コーディネーター	全学年	○高島小授業のチェックリストをもとに、一人ひとりが授業改善を意識して実践する。	通年		
2	一人一授業の実施と管理職の授業巡回	研修主任	全学年	○研修主題に沿った授業展開を意識した授業を実施し、参観後は授業者への意見を「参観シート」を用いて伝え、お互いの授業力改善を図る。また、管理職からの助言を基に、授業改善に努める。	通年		
3	資質向上研修・メンター研修	各担当教諭	全職員(若手教員)	○様々な職員の知識を互いに共有し、個々の資質向上を図る。 ○若手教員の日々の悩みを共有し、メンターからのアドバイスや情報提供をする。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の結果分析	学力向上コーディネーター	全職員	○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査問題を解き、授業改善の視点を協議し共通理解を図る。	夏休み		
2							
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	読書時間の確保	図書主任	全学年	○家庭学習がんびり週間と連携して読書する時間を取り入れ、家庭でも読書する時間の確保に励む。また、第1回の学校評価アンケート結果で取組状況を把握し改善策等を検討する。	毎月第3週		
2	家庭学習時間の確保	学力向上コーディネーター	全学年	○毎月の「家庭学習がんびり週間」では、メディア時間を設定し、家庭学習の充実を図り、学年ごとに設定された最低時間を目安に実施する。	毎月第3週		
3							

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)



## 令和6年度 学力向上計画・報告書

## 邑楽町立中野東小学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当当事	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	「習得」「定着」「探究」のサイクルが確立した授業の実地	教科部会	全学年	○単元や題材などのまとまりを考えた指導計画を元に、児童が見通しをもてるような授業のめあてを提示し、何をどのように学んだのか自分で振り返る時間を確保する。また、めあて、まとめ、振り返りを表す記号を全校で統一し、児童に毎時間使うものだという意識をつける。	通年		
2	朝の時間の有効活用	学力向上 コーディネーター	全学年	○登校後の時間を活用し、読書の推進や補充学習を行い、1時間目の授業に落ちついて取り組めるようにする。	通年		
3	学校独自の基礎基本テストの実施、結果分析	学力向上 コーディネーター	全学年	○長期休みの課題を利用した復習サイクルを作り、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図る。また、テスト実施後は結果を分析し、指導の改善に生かす。	学期始め		
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	ローテーション道徳の実施	教務主任	全学年	○学年の教員でローテーションを組んで道徳の授業を実施し、一人の授業者がより深く教材研究ができることにより、児童が授業での学びを深められるようにする。また、複数の教員で授業を行うことで、学年全体の児童の様子をより理解できるようにする。	通年		
2	交換授業・教科担当制指導の実施	教務主任	全学年	○交換授業・教科担当制を実施することにより、専門性を生かした系統立てた指導を行い、知識・技能の定着や思考力の育成を図る。	通年		
3							
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	授業実践における自己評価の実施	学力向上 コーディネーター	全学年	○学期の終わりに「授業改善自己評価」のアンケートを実施し、指導方法を振り返ることで授業改善に生かす。	学期 終わり		
2	資質向上研修の充実	研修主任 メンター研修	全学年	○教師の指導技術の基礎研修として、様々な研修を取り入れていく。また、本校の教師を講師として、教師同士が学び合う機会を増やしていく。	通年		
3	一人一授業の実践と授業改善	研修主任	全学年	○お互いの授業を見合うことで、授業の進め方の工夫や子どもへの声掛けの工夫を知って自分自身の授業に取り入れられたり、お互いのよさを認め合ったりすることで、授業力の向上を図る。	通年		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上 コーディネーター	全学年	○実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析する。特につまづきやすい問題から、各学年で身に付けるべき力や関連する単元、学習方法を確認し、授業改善につなげる。	夏休み		
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上 コーディネーター	全学年	○県教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析の資料の活用や、解説動画を視聴することで、児童のつまづきやすい学習内容を捉え、授業改善につなげる。	夏休み		
3	CRTの成果及び課題分析	学力向上 コーディネーター	全学年	○CRTの結果を分析し、児童の学力向上を図るとともに、教員の授業改善のポイントを検討する。	2～3月		
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	家庭学習・家庭読書の充実	学力向上 コーディネーター	全学年	○家庭での学習時間・読書時間を「学びの足あと」に記録し、家庭学習の習慣化を図る。また、懇談会や通信等で調査結果を家庭に伝え、協力を仰ぐ。	学期に 1回		
2	生活習慣の改善	学力向上 コーディネーター	全学年	○「学びの足あと」にテレビ・ゲーム・ネット時間や睡眠時間なども記録する。また、調査結果を家庭に伝え、改善策を共有する。	学期に 1回		
3	読み聞かせ	読み聞かせ ボランティア	全学年	○学期に2回、朝学習の時間に、読み聞かせボランティアの方が選んだ本を児童に読み聞かせてもらい、本に触れるきっかけを作ることで、読書により親しめるようにする。	学期に 2回		

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)



## 令和6年度 学力向上計画・報告書

呂楽町立呂楽中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)		
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実							
No.	主な取組	担当当事	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て	
1	学力向上計画の立案、実施、報告、修正、見直し	学力向上C	全学年	前年度の課題を踏まえ、今年度の研修主題・副主題を元に学力向上計画を立案、実施する。状況を共有しながら修正・見直しを適宜行う。	各学期はじめ		
2	総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し	総合主任 研修主任 学力向上C	全学年	全学年において、教科で学んだことを活かせるように年間指導計画を見直すとともに、探求的な学習を現状よりも多く取り入れた計画の立案を適宜行う。	随時		
3							
取組Ⅱ 指導体制の工夫							
1	学習規律の構築	学力向上C	全学年	授業における「めあて」と「ふりかえり」の札の提示や背面黒板の書き方等を全職員で確認・共通理解し、学習規律の構築を図る。	4月		
2	輪番制の学級会の実施と生徒会活動の充実	特別活動主任	全学年	全学年で輪番制による学級会を行い、生徒の主体性や自治できる力を育む。また、生徒会主体で生徒総会を行い、より良い学校生活が送れるように生徒自ら自治を行い、校則改変に取り組む。	随時		
3	全教員によるローテーション道徳の実施	道徳主任	全学年	全学年でローテーション道徳の授業を実施し、多様な価値観や人間性に触れることで、生徒が多面的・多角的に物事を捉えられる力を育む。	随時		
取組Ⅲ 指導力の向上							
1	教科部会の活性化	研修主任 各教科主任	全教科	校内研修全体会において、定期的に教科部会を設定し、生徒の実態把握を含む情報交換、3年間を見通した指導力の向上に向けて教科部会の活性化を図る。	随時		
2	資質向上研修を通じた情報発信、意見交流	研修主任 学力向上C	全教職員	各教職員の知識や教育技術を活かした資質向上研修を定期的に設定し、共有していく。	随時		
3	一人一授業の実施	研修主任 学力向上C	全学年	研修主題に迫る手立てを用いた授業を一人一実践することで、授業力の向上を図るとともに、全校で研修に取り組める環境を整える。	9月		
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用							
1	全国学力・学習状況調査の成果と課題の分析	研修主任 学力向上C	全学年	実施学年の教職員だけでなく、全教職員が全国学力・学習状況調査の問題にふれ、成果と課題を共有することで日々の授業に分析内容を還元していく。	9月		
2							
3							
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働							
1	DailyLifeを活用したより良い生活習慣づくり	学力向上C	全学年	全学年共通のDailyLife（連絡帳）を使用し、日常の記録と日記を活用し、生徒自身が見通しを持った学校生活を送れるように、自立した生活習慣作りを行う。	随時		
2	授業参観、学校公開の実施	教頭 教務主任	全学年	各学期に授業参観、学校公開を実施し、保護者や地域の方に開かれた学校を目指す。	各学期		
3							

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)

## 令和6年度 学力向上計画・報告書

呂楽町立呂楽南中学校

(年度当初の計画)					(進捗状況の報告)			
取組Ⅰ 教育課程の改善・充実								
No.	主な取組	主担当者	学年等	具体的な内容	重点時期	後期訪問時の状況と今後の手立て		重点時期
1	朝学習の実施	学力向上コーディネーター	全学年	タブレット端末やプリントを用いて、教科や単元を各自または学年で選び、一人一人の実態に応じた学習に取り組む。	毎週月・水・金			
取組Ⅱ 指導体制の工夫								
1	学習支援	学年主任	全学年	数学や英語を中心に、苦手な生徒のサポートができるように、ICTを用いた授業を展開したり、定期的に教科部会を開き、つまづき易い問題について話し合ったり、その生徒に必要な支援を考える。	通年			
2	補習の充実	学力向上コーディネーター	全学年	定期テスト前の放課後、各学年の生徒の実態に応じて生徒が質問を解決したり、自らの課題を見つけたりするための補習を行う。	定期テスト前			
取組Ⅲ 指導力の向上								
1	ICT機器の活用と工夫	情報主任	全学年	ICTの使い方の研修を段階的に行っていく。また、ICT機器を使った授業実践を報告し合い、よりよい活用の仕方を共有していく。	2学期			
2	一人一授業の実施	研修主任	全学年	一人一授業を公開し、管理職や各教科担当の職員に見学してもらい、実践後に授業の内容について話し合い、成果と課題について分析する。	2学期			
取組Ⅳ 全国学力・学習状況調査結果の活用								
1	今求められる学力の理解	各教科の担当職員	全学年	令和6年度の全国学力・学習状況調査の問題を解き、今求められている学力や、それを身に付けさせるための授業の工夫について話し合う。	夏休み中			
2	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	県教委や町教委が作成した全国学力・学習状況調査の結果分析資料の活用や解説動画の視聴を通して、児童生徒の学力向上及び教員の授業改善のポイントを検討する。	2学期			
3	全国学力・学習状況調査の成果及び課題分析	学力向上コーディネーター	全学年	実施学年の教職員だけでなく、全職員で分担して全国学力・学習状況調査を分析し、本校の課題を把握する。	2学期			
取組Ⅴ 他校種や家庭、地域社会との連携・協働								
1	授業参観、学校公開の実施	担任学年主任	全学年	授業参観や学校公開で生徒の様子を見てもらい、家庭で学校での様子について話し合う機会ができるようにする。	1学期、2学期			
2	キャリア教育の充実	担任学年主任	全学年	三者面談で学校や家庭の様子について保護者と情報交換を行い、よりよい生活習慣や学習への取り組みについて話し合うことで進路決定に繋げていけるようにする。	5月、11月			
3	地域人材の活用	総合的な学習の時間主任	全学年	職業体験や総合的な学習において、テーマに適した地域の方を講師として招いたり、長柄小学校の児童と繋がったりすることで、体験をもとにした専門的な内容を学ぶ機会を設ける。	2学期			

(行は適宜、継ぎ足したり、削除したりしてください)